



大原中学校だより

「校訓:誠実」と「凡事徹底」 校長 野中文明



【学校教育目標】 目的意識をもって自ら学び、心豊かに逞しく未来を拓く生徒の育成

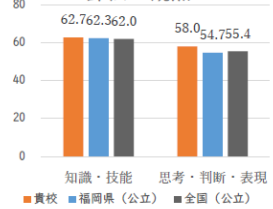
全国学力・学習状況調査の結果（3年生）…国語と数学に関する調査、生徒質問調査

<調査の目的> 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

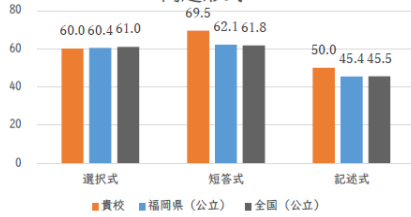
- <調査事項>** (1) 教科に関する調査(国語、数学)
- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能等
 - ② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等
- (2) 質問調査(学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問)

国語

<評価の観点>

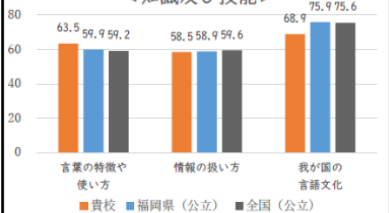


<問題形式>

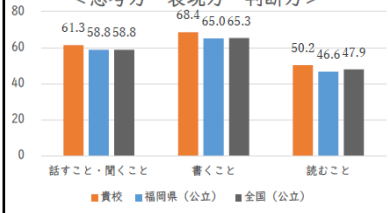


【数値は平均正答率：％】
 全体の正答率は、県平均・全国平均ともに上回っていました。評価の観点等でも、特に苦手な問題や傾向はありませんでした。しかし、目的に応じて文章を書く問題や、情報を使い分ける問題の中に正答率

<知識及び技能>



<思考力・表現力・判断力>

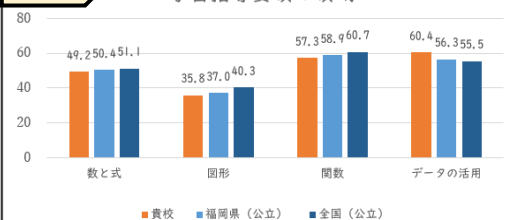


が低いものがありました。そこで、日々の授業の中で、意見と根拠を明確にすることを意識して文章を書く練習を行なっていきます。また、我

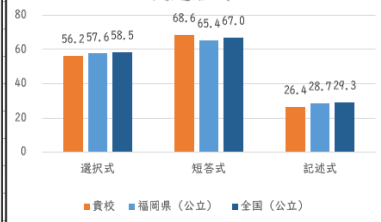
が国の言語文化に関する問題において正答率の低さが見られます。その要因として、授業の中で得た言語に関する知識が十分に定着していないことが考えられますので、学習をした次の時間の導入で確認する機会を設定し、一時的に覚えるだけでなく知識として定着できるようにしていきます。

数学

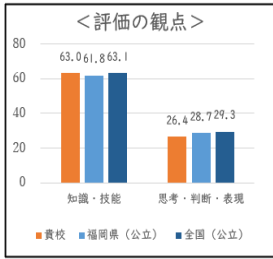
<学習指導要領の領域>



<問題形式>



全体の正答率は県平均を上回っていました

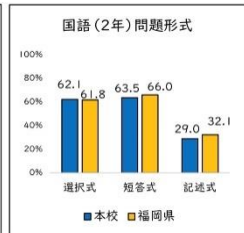
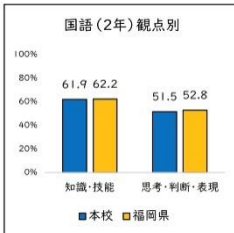
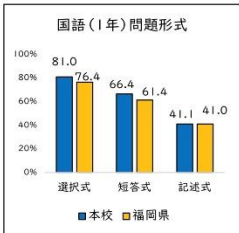
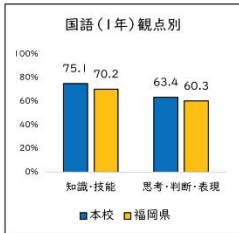


たが、全国平均は下回っていました。特に、証明問題では、結論を仮定として用いたり、誤りを含んで証明をしたりしている場面が見られることから、結論を導くには何を根拠として示す必要があるのか、なぜその根拠を用いることができるのかという事を考える必要があります。また、思考・判断・表現の観点及び、記述式の問題の正答率が低いことから、記述式の問題を解く時間を十分に確保できていないことが考えられます。これらのことから、まず新たな単元に入る際は、同じ領域の既習事項を確認・関連付けたりしながら授業を進めていきます。その際、T T授業で既習事項につまずいている生徒に対しての支援を行い、改善を図っていきます。次に、記述式の問題には、生徒同士の小集団での話し活動などを通して自分の考えを発信する取り組みを行います。また、思考力を問う問題を扱う時間を十分に設け、見方や考え方を活かす視点を身につけることが出来るように学習を進めていきます。

福岡県学力調査の結果（1・2年生）・・・国語と数学に関する調査

国語

全体的な正答率を見ると1年生は、県平均を上回っていました。2年生は、県平均を下回っていました。1年生で課題が見られた問題は「助言をもとにスピーチに加える内容を条件にしたがって書く。」という問題です。相手の意図をくみ取り、相手が聞きたいことは何なのか？相手はどのように伝えてほしいのか？想像する力と発信する力が必要です。2年生は、「比喩を用いた表現になるように、空欄に当てはまる言葉を書く。」という問題です。表現の技法を理解し使うことができるか？という問題ですが、つまりは相手への言い方・伝え方です。コミュニケーションツールとしての言葉を上手く使うためには、場面の状況を判断する力、相手の心中を察する力、豊かな表現力、表現するには言葉そのものを多く知っておくこと、知っている言葉の中から適切なものを選ぶ力が必要です。



数学

全体的な正答率を見ると1年生は、県平均を上回っていました。2年生は、県平均を下回っていました。1年生で課題が見られた問題は「台形と三角形の面積の関係について正しいものを選び、その理由を書く。」という問題です。説明の根拠として使うことのできる正しい知識を身につけ、相手が納得するように説明を組み立てる力が必要です。2年生は、「正負の分数の足し算や引き算。」「与えられたグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる。」という問題です。分数の足し算や引き算については、もう一度、「分母が同じ場合」と「分母が異なる場合」の計算方法をそれぞれ確認し、通分を身につけることが必要です。関数(比例のグラフ)については、なんとなく数字を見るのではなく規則性があるのでは？と疑問をもつこと、共通する部分がないか？と探ること、1つの事柄や起きていることを一面から見るだけではなく複数の面から見る力が必要です。

